

2025年12月17日
株式会社SVPジャパン

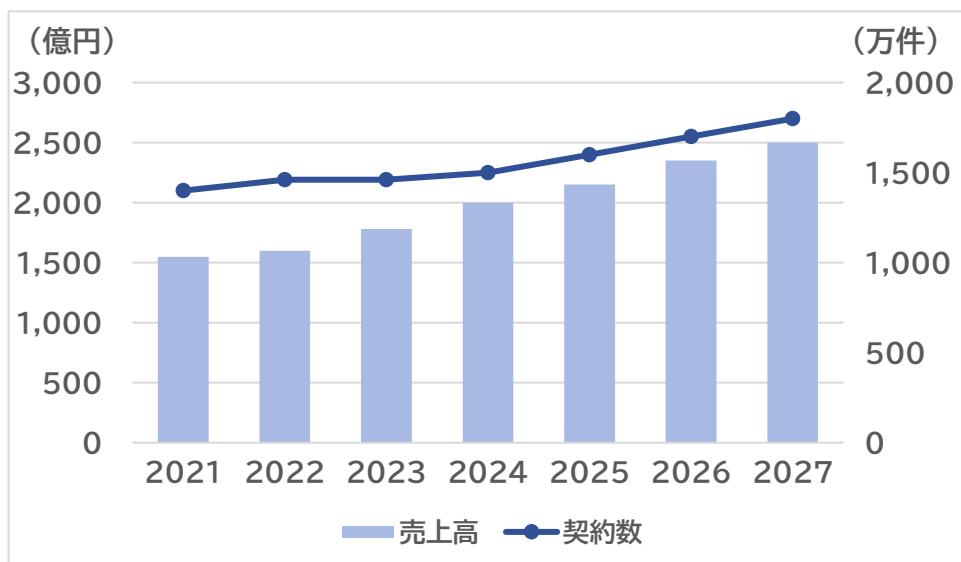
SVP注目市場分析 「格安スマホ (MVNO)」を公開

～法人需要拡大と新規参入がもたらす市場再成長の兆し～



会員制マーケットリサーチサービスを提供している、株式会社SVPジャパン（本社：東京都中央区、代表取締役社長：橋本 雅、以下「SVPジャパン」）は、本日、SVP注目市場分析レポート「格安スマホ (MVNO)-国内市場の現状と将来展望-」を、会員企業向けに公開いたしました。

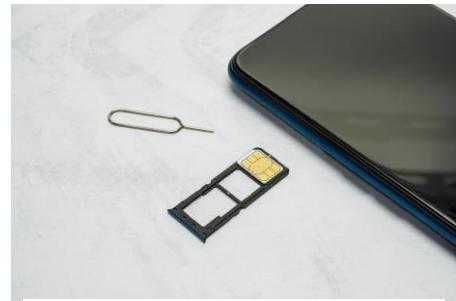
■格安スマホ (MVNO) の国内市場



本レポートでは、国内で「格安スマホ」サービスを提供する通信事業者の動向を概括する。MVNOとは、通信キャリア（MNO）から回線を借り受け、自社の料金プランでスマートフォンやIoT機器向けのSIMサービスを格安で提供する事業者である。MVNOが通信サービスを提供しているスマートフォンは、一般的に「格安スマホ」や「格安SIM」と呼ばれている。2015年にMNOに端末のSIMロック解除が義務づけられたことで多数の事業者が参入し、本格的な拡大が始まった。近年は大手キャリアのサブブランド展開により厳しい環境が続いていたが、法人向け需要の拡大やIoT用途の増加、さらにキャリアの料金見直しが追い風となり、市場は成長局面にある。MVNOの契約数は2024年に約1,500万件と推定され、今後も増加が見込まれ、2027年にはさらに拡大すると予測する。

■格安スマホ（MVNO）の市場概況

MVNO市場では、インターネットイニシアティブ（IIJ）が法人向け需要の拡大を背景に契約数首位を維持し、オプテージ、NTTドコモ、JCOMがこれに続く。IIJは大容量プラン「ギガプラン」やSIMカードを使用しない「eSIM」、その他「SoftSIM」などの展開により個人・法人双方で契約を伸ばしている。オプテージは「mineo」を中心にユーザー参加型サービスで高い継続率を確保し、法人向け契約も拡大している。JCOMは、JCOMのケーブルテレビやインターネット回線サービスの契約者向けのセット販売や訪問サポートで高齢層の獲得が進む。参入企業はインターネットサービスプロバイダー、電力会社、小売業、ベンチャーなど多岐にわたり、一次・二次・三次MVNOが混在する裾野の広い市場となっている。



■本レポートの構成

- I. 市場の定義
- II. 市場動向
- III. 市場規模・予測
- IV. マーケットシェア
- V. 参入企業の動向
- VI. 業界構造



←レポート全編を見る クリック
※本サービスのご利用は、
SVP会員様限定でございます。

■購読について/資料ダウンロード・お問い合わせ

本サービスのご利用は、SVP会員様限定でございます。

購読をご希望の場合、当社SVP会員になっていただきますと、定期的に配信する市場調査レポートを全てご購読いただけます。なお、SVP会員は、ビジネス調査に関する、クリックリサーチとプロジェクトリサーチもご利用いただけます。

資料請求

お問い合わせ



■ 次回のテーマ

1月のテーマは「動画配信サービス」と「マッチングアプリ」を予定しています。

～SVP注目市場分析レポート更新スケジュール…毎月第1・第3水曜日の発刊を予定～

[会社概要]

社名 : 株式会社SVPジャパン
代表取締役 : 橋本 雅
所在地 : 東京都中央区日本橋蛎殻町1-38-9 宮前ビル2F
設立年月日 : 1974年7月1日
事業内容 : 会員制のビジネス情報提供サービス
URL : <https://www.svpjapan.com/>

[本プレスリリースに関するお問い合わせ先]

株式会社SVPジャパン DX推進部 デジタルマーケティング課
info@svpjapan.com